

# 南中食育新聞 9月号

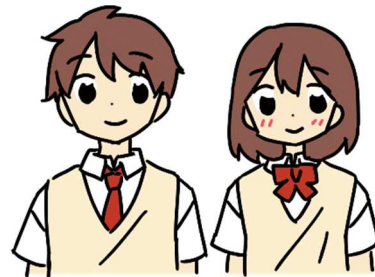
## 地球は1つ。One Health!

～人間・動物・環境の健康と食育～

世界を揺るがした新型コロナウイルス感染は、中国のコウモリが持っていたウイルスが人間に感染したのが始まりといわれています。こうした感染症を「人獣共通感染症」といいます。新型コロナウイルス以前にも、アフリカで起きたエボラ出血熱、中東呼吸器症候群(MERS)、鳥インフルエンザ(SARS)などがこうした人獣共通感染症として知られています。

今回は人間、環境、植物、家畜など、すべての生物の健康を守っていくことが大切だという考え方の1つ、「One Health」(ワン・ヘルス)についてお話ししたいと思います。

COVID-19



## 人間と動物の関係を見直し、互いに健康に!

「One Health」という考え方が広まったのは、開発や地球温暖化などの環境の変化で野生動物と人間との接触機会が拡大したこと、そしてグローバル化が進み、感染した人が短期間で極めて広い距離を移動できるようになったことが背景にあります。

こうした変化に対し、今までのように感染した人を治療するだけでは不十分なのではないだろうか。そして、人間と動物、さらに生態系との関係を見直し、環境の改善を図って、それぞれの健康を維持・増進させなければ、今後もこうした大流行は防げないという認識が高まってきたのです。このOne Healthの考え方は、2004年に国際会議が行われた場所にちなんで「マンハッタン原則」とよばれることもあります。

## One Health



## One Healthを実現するために、今、食育でできること

今後、食の安全や安心を考えていくときも、人間の健康だけを追い求めてはいけな時代になりました。One Healthの立場から、医学に限らず、生物学、農学、そして教育などさまざまな分野の知恵を集めて、人間と動物、そして環境の健康を考えていかなければなりません。

食育の取組でも One Health に貢献できることがあります。たとえば食品ロスを出さないことや、今、地方で大きな問題になっている耕作放棄地を減らし、地域の生態系を守っていくために、もっと地産地消を盛んにしていくことなどが考えられます。また海洋汚染の原因になっているマイクロプラスチックを出さないために「マイバック」を持参して買い物でレジ袋を断るなど、環境に優しい消費行動もあります。みなさんのこういった行動や取組が One Health につながるか、クラスメイトや先生方とも話し合ってみてください。



## 人間と動物がともに健康であることが重要

～生態系を守るために～

小学校の理科で食物連鎖や生態系のことを勉強したと思います。生物は「食べる・食べられる」関係でつながっています。動物が食べるものをたどっていくと植物につながります。植物は日光を受けてデンプンなどの養分を作りますが、このとき植物は、空気中の二酸化炭素を取り入れて酸素を出しています。このように、植物と動物は食べ物としてだけでなく空気を通して関わりあって生きています。

地球上の生態系の保全は、こうした大きな営みの中で、人間と動物、そして植物なども含めた生物がすべて健康であることで初めて達成できるものです。その実現と維持のために、とりわけ今、人間と動物の健康維持に向けた取組が必要だといわれています。

